

第 15 回国立大学法人島根大学物品・役務等契約監視委員会 議事概要

1. 開催日	令和 7 年 7 月 3 0 日（水）		
2. 開催場所	国立大学法人島根大学 本部棟 1 階第二会議室		
3. 定例会議（審査対象年度）・臨時会議の別	定例会議（審査対象：令和 6 年度）		
4. 出席委員	○委員長 吉田 孝（国立大学法人島根大学 監事） ○委 員 中野 俊雄（島根県行政書士会理事・総務部長 行政書士） 山根 朋洋（公認会計士）		
5. 審議事項	○議事 1. 審査対象案件の抽出結果について（監査室報告） 2. 取引停止の措置について 3. 審査対象案件の審査について 4. その他 （1）電子ジャーナルに係る契約について（図書情報課説明） （2）その他		
6. 審査対象案件の内訳	総数	書面審査	対面審査
一般競争入札	91 件	8 件	5 件
最低価格落札方式	84 件	7 件	4 件
総合評価落札方式	7 件	1 件	1 件
指名競争入札	- 件	- 件	- 件
最低価格落札方式	- 件	- 件	- 件
総合評価落札方式	- 件	- 件	- 件
随意契約	44 件	5 件	1 件
企画競争	2 件	- 件	- 件
公募	1 件	- 件	- 件
競争性のない随意契約	39 件	4 件	- 件
不落随意契約	2 件	1 件	1 件
7. 委員の質問・意見等及び本学の回答等	別紙のとおり		
8. 委員会としての意見	指摘すべき重大な事項は認められない。		
9. その他			

委員の質問・意見等	本学の回答等
<p>1) AEA papers and proceedings外 計 15 件の利用一式</p> <p style="text-align: center;">【一般競争入札（最低価格方式）】 （企画部図書情報課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 15件のうち、ある部分がU S ドル、別な部分がスイスフランでそれぞれ支払わないといけないのか。 ・ 電子ジャーナルを取扱う業者は、本件の 2 者以外なのか。 ・ A 社が安く落札した理由はなにか。 ・ 毎年契約しているのか。 ・ 為替が絡む入札であり、手数料率も変化するが、為替レートを把握するための時間軸はどのようなものか。 ・ 為替レートで T T S レートの最大値（円安）を用いているが、他大学はどのようにしているか。最大値（円安）を用いることには疑問もある。為替レートはどちらに転ぶかは分からない。 ・ 他大学の事例を2, 3年に一度は確認した方がよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 契約業者へは大学から円建てで支払うが、海外の大元がU S ドル、スイスフランなので、複数の通貨となっている。 ・ 個々のジャーナルについて個別に見れば、取扱い業者は本件の2者以外にも複数ある。タイトルごとに取り扱い可能な業者は異なる。 本学で購読している電子ジャーナルタイトル全体について、各業者に取扱い可否を確認し、取扱える業者が複数になる形で契約の束を作成した結果、本件については「2者が取り扱い可能な15件タイトルの束」となった。 ・ 参考見積の際は、高めの価格を見積もってきたものと思われる。 ・ 雑誌の構成を教員へ照会した結果、毎年変化があるため年ごとに契約している。 ・ 本件に関しては、昨年10/3入札公告をし、約1カ月後の入札、開札であった。 ・ 他大学では、1～2週間の平均を採用している例もある。電子ジャーナルの契約において、全てを最大値（円安）を用いているわけではない。今回は為替レートの変動が大きかったため、最大値（円安）を用いたものである。 ・ 他大学とは毎年全般的な情報交換をしている。
<p>2) （川津）特定建築物空気環境測定その他業務</p> <p style="text-align: center;">【一般競争入札（最低価格方式）】 （財務部施設企画課）</p>	

委員の質問・意見等	本学の回答等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 請負が可能であることを証明する書類とは、具体的に何か。 ・ 請負ったB社は、島根県のビル管理業者に係る登録資料には、建築物空気環境測定についての資格有りの登録がないが問題ないのか。 ・ 島根県内の3者から見積を取った結果、1者しか入札参加がなかった。ビル管理登録業者は60者ぐらい登録されているが、1者しか応札がなかった結果からして、3者からの見積徴収では少ないのではないのか。競争原理が機能していないのではないのか。 ・ 参加者は島根県の業者に絞ったのか。請負ができる業者は何者あるのか。 ・ 広く参加者を募るべきである。 ・ 一者入札となった原因として、積極的な入札参加への働きかけをしていなかったという所見は問題である。引き続き参加者増に努力して欲しい。 ・ 島根大学の業務を請負っている実績が、業者にとって信用度が付くメリット、一定のステータスになるとアピールしてはどうか。 ・ 鳥取県米子地区の業者にも声掛けを行ったら参加者も多くなるのではないのか。県を跨いだ対応も検討してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学で確認様式を設定し、過去の実績等を記入するもの。それについて参加業者が自己申告で記入し、過去の実績等の根拠となる契約書（写し）等を添付資料として提出を求めている。提出された書類をもとに請負が可能かを確認した。 ・ 国と県では登録基準が異なるところであり、本件についてはB社の参加資格を確認し問題はないところである。 ・ 参加しなかった業者に確認したが、他に契約があり、本件には参加できない旨の回答があった。次回からは多くの業者に 見積徴収を行うこととする。 ・ 地域指定はしていない。島根県内で十数者、松江市内でも7～8者程度資格有りの業者がある。 ・ 努力したい。 ・ 了解した。 ・ 契約情報は公表している。考慮したい。 ・ 他県の業者を参加させないということはない。今後検討したい。
<p>3) 軟性内視鏡システム 一式</p> <p>【一般競争入札（総合評価落札方式）】 （医学部事務部会計課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合評価による落札者決定を行う基準は何か。 ・ 本件は複数業者が入札できない特殊なものなのか。広く声をかければ他の業者が参加するのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調達価格が6,900万円以上の案件では総合評価による落札者決定を行っている。 ・ 構成内訳のとおり、複数のメーカー製品を組み合わせたシステムであり、それに対応できる業者は地域性も考慮すると限られている。

委員の質問・意見等	本学の回答等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加業者への声掛けは、中国地区に広げられないのか。 ・ 一者入札の結果から、随意契約に近い形となっているのではないか。 ・ 既存のシステムと性能が違うのか。 ・ 既存のシステムの業者へも声掛けをしたのか。 ・ 今回の調達仕様では、既存業者の製品では性能面で要件を満たせなかったのか。 ・ 保守契約も同時に契約するのか。 ・ 他大学と調達に係る情報交換はしないのか。 ・ 入札の目的は、競争による価格低下を目指すものであり、参加者が一者とならないよう工夫して欲しい。 ・ 一者入札となった原因と、複数の応札者を得るための改善措置に係る表記は、相互に矛盾するのではないか。 ・ 今回の調達で実質的にC社製に限定されている仕様ならば競争原理が働かないのでは。 ・ 本製品のメンテナンス経費が別途必要か。 ・ 経費節減も重要なことであるが、病院においては医療の安全性確保が使命である。その範囲内で競争性を高めるよう努力頂きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な業者へ声掛けを行っているが、医療機器なので中国地区で対応できる業者は限られている。 ・ 問題であると認識している。 ・ 今回調達した製品の方が画質が明瞭である。 ・ 既存のシステムの業者へも声掛けを行った。 ・ そのように思われる。 ・ 保守契約は、別契約となる。 ・ 他大学との情報交換は実施している。他大学においても一者入札となる案件が多く、効果的な解決策は見出せていない。 ・ 了解した。 ・ 仕様策定委員会で決定された基本的な部分以外において、不必要な部分があるのであれば削除するよう努めていきたい。 ・ C社製に限定されると、納入代理店は限られてくる。 ・ 内視鏡なので、メンテナンスはスポット対応となる見込みである。 ・ 了解した。
<p>4) 救急患者受付等業務</p> <p>【一般競争入札（最低価格方式）】 （医学部事務部会計課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合評価入札と最低価格による一般競争入札の違いは、調達金額によるものか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調達金額による違いである。

委員の質問・意見等	本学の回答等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務の信頼性維持が重要であるため請負業者は変更しずらく、入札参加者が少ないのではないか。 ・ 医療事務（有資格者）の人手不足が一者入札となった主な要因か。 ・ 医療事務に係る技能認定試験に合格した有資格者を業務従事者として求めているが、入札参加者を増やすにあたり何らかの検討ができないか。 ・ 今回3回入札を行っているが、金額が折り合わない場合はどのようにするのか。 ・ 複数年契約はできないのか。 ・ 人材派遣とかの手法はできないのか。 ・ 大学職員による本件業務の内製化が可能であれば、検討していく必要があるのではないか。全体の仕組みの検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去にも別業者に変わったこともある。 ・ 一者入札となった原因として挙げている有資格者の人手不足が解消されるのであれば、改善が見込まれると思われる。 ・ 時間外受付時間帯に、診療料金計算を行うことが課題となっている。この診療料金計算を行わないのであれば、有資格者を求める必要はなくなるかもしれない。 ・ 予定価格に達するまで、何度も入札を繰り返すしかない。場合によっては、不落随意契約に移行する。 ・ 人件費が高騰しており、複数年契約の条件にすると、見積価格が単年度契約分より高くなるため、複数年契約を実施しなかった。 ・ 現状様々な課題があり、本件業務を人材派遣による対応に変更することは直ちにはできない。診療料金計算を土日祝は行わず、平日に医療サービス課が対応するということも可能であるが、附属病院全体で様々な検討が必要となる。 ・ 今後検討したい。
<p>5) 透過型電子顕微鏡システム 一式 【一般競争入札（最低価格落札方式）】 (財務部経理・調達課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本製品の詳細はどのようなものか。 ・ 本機能はD社製に限ったものではないのか。 ・ 資料提供は2者なのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕様書にあるとおり材料の内部構造を観察することができる高性能な電子顕微鏡である。 ・ D社製のみではない。基本的概要を記した資料を示し、意見招請の機会も設けている。 ・ 本学から2者に資料を提供し、説明会参加、入札は1者であった。

委員の質問・意見等	本学の回答等
<ul style="list-style-type: none"> ・ D社製以外で候補となる機器が他にいくつかあったと思われるが、代理店に声掛けとかを行うことが不足していたのか。 ・ 今回はメーカーから直接の購入となっている。どの時点でD社からの直接購入と決まったのか。メーカーであるD社以外の他の代理店業者が参加することはできたのか。 ・ 入札に参加しなかった業者からの聴取内容を見ると、仕様策定段階からD社製以外は不可であるように読めるがどうなのか。 ・ 仕様書において、求められる技術的要件が特定製品しかないというように読めると競争原理が働かないのではないのか。 ・ 購入依頼部局においても、仕様書で求める技術的要件を満たす他の製品を探す等の対応も必要ではないか。 ・ 一者入札を防ぐ答えが見出しにくいですが、本件は特殊な製品なのか。 ・ 本製品を扱っている代理店を複数参加させるとか、一者入札とならないための工夫が必要ではないか。購入依頼部局の教員にも入札の趣旨を理解してもらい競争性の確保に努めて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一者入札という結果から考えると不足していたかもしれない。 ・ D社製でも他の商品では代理店を通す場合もあるかもしれない。今回は、メーカーであるD社が直接参加することになった。 ・ D社製以外を排除しているものではない。 ・ 資料提供、意見招請において、特段の意見の表明がなかったため、本仕様において複数者が参加できるものと判断した。 ・ 検討したい。 ・ 特殊な製品であると思われる。 ・ 仕様策定委員会の第1回目は、経理・調達課職員が立ち会い、仕様は必要最低限とし、参加業者が複数となるよう働きかけている。
<p>6) 材料エネルギー学部棟建設に伴う実験機器等移設業務 一式</p> <p>【一般競争入札（最低価格落札方式）】 （不落随意契約） （財務部経理・調達課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本業務は、どのような業者でも履行が可能なものなのか、それとも実験機器の移設なので特定の業者でないと対応できないのか。 ・ 一般の運送業者でも請け負うことはできたのか。 ・ 不落随意契約では、何回見積書を出してもらったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 精密機器、研究機器については、実質は該当機器のメーカーが移設、設置据付けを行い、その間の連絡調整を行うのが本業務請負者の役割である。 ・ 可能である。 ・ 1回である。

委員の質問・意見等	本学の回答等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 発注を余裕のある日程に出来なかったのか。 ・ 建物工事とは別にもっと早く対応出来なかったのか。 ・ もっと早くから対応すれば複数者が対応できたかもしれないのでは。 ・ 不落随意契約の流れはどのようになっているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機器を管理する教員との調整に手間がかかった。また建物工事との関連もあり後ろ倒しになった。 ・ 機器を管理する教員の理解が必要であり、円滑に対応できないところがあった。研究室で教員自身が移設する機器の確認、また段ボールの数の確認等、様々なことの調整に時間がかかった。 ・ 全国では本件業務に特化した他の業者もあるが、年度末の3月の移設であるため、他の業者が参加できなかった。 ・ 一般競争入札を実施し、参加者が辞退した段階で不落随意契約に移行する。